

ばんけい

教育ほつとにゅーす
かわら版こ みち
教育の小径No.77
3月号
2015 March

今月のことば

いちごいちえ
一期一会

一期とは一生涯のこと。生涯で一度だけ出会うことです。人との出会いを大切にするという心構えを言っています。最後の出会いという意味では使いません。



国士舘大学教授
北 俊夫先生

新年度に夢をもたせよう

- 子どもたちにこの1年間に学校行事で体験したことや授業で学んだことを振り返らせ、さまざまな面で成長してきたことを実感させます。
- 4月から進級する学年や進学する中学校への夢と目標をもたせませす。不安を取り除き、自信と期待を胸に新年度を迎えられるようにします。

今月の記念日

放送記念日(3月22日)

NHKが昭和18年に制定した記念日です。東京放送局(現在のNHK)が、大正14年(1925年)のこの日に、東京・芝浦の仮送信所から日本で初めてラジオの仮放送を始めました。

1年間の頑張りに自信を

3月はこの1年間を振り返り、まとめをする大切な時期です。学級活動などの時間を利用して、一人一人に昨年の4月からの学校生活を振り返らせ、成長の証しを実感させます。

子どもたちに振り返らせるポイントとして、次のようなことが考えられます。

一つめの振り返りとして、これまでに体験したさまざまな学校行事を思い出させるとよいでしょう。昨年の4月からどのような学校行事に参加してきたかを時系列で振り返らせませす。その時その時の写真やビデオなどを活用するとさらに効果的です。運動会や遠足、宿泊を伴った行事などに楽しい思い出がたくさんあるはず。これら一つ一つが貴重な足跡です。

次に振り返らせたいことは、学習面での成長です。できなかったことができるようになったこと、わからなかったことがわかるようになったことをできるだけ具体的に振り返らせませす。教科書の目次やノートの記述を見ながら、この1年間に学習してきたいろいろなことを思い出させませす。子どもたちの頭には、1年間の出来事がスライドのように再現されるでしょう。

さらに、身体や心の面でも成長したことに気づかせませす。身長が伸び、体

重が増えたこと、友だちに心優しく接したこと、我慢強くなったことなどを確認させませす。

一方教師は、子どもの進歩の状況や努力の成果を見だし、一人一人に伝えます。教師から認められると、子どもは嬉しい気持ちになります。子ども同士が相互に優れているところを見つけさせ、「○○さんはこの1年間図書委員としてがんばってくれました。ありがとうございます」などと発表し合うことも効果的です。

このような振り返りをすることによって、子どもたちは成長してきたことを実感し、1年間の自分の頑張りに対して自信をもつようになります。振り返ることには、1年間の頑張りに自信をもたせるという意味があります。

次年度へのイメージをもたせる

子どもたちは4月から新しい学年に進級します。6年生は中学校へ進学していきます。子どもたちは新しい学年や中学校での生活や学習を楽しみにし、期待していると同時に、少なからず不安を感じているものです。この時期には、次のような取り組みをとおして次年度の学校生活に夢と目標をもたせ、不安を取り除くようにします。

次年度になるとどのような新しい学習が始まるのかを丁寧に説明します。

3年に進級すると、社会科や理科という新しい教科の勉強が始まること、6年になると、最上級学年として学校全体の見本にならなければならないことを指導します。一つ上の学年の教室を訪問し、勉強している様子を観察させることも効果的です。

特に重視したいのは6年生への指導です。中学校では中学生らしい学校生活が始まります。学校の雰囲気も大きく変わります。新しい生活への夢と期待をもたせることが何より重要です。

「中1ギャップ」という言葉があるように、子どもたちは小学校6年と中学校1年との間に大きな溝があることを感じとっています。こうした課題を解決するため、進学する中学校を事前に訪問したり、中学校の先生が小学校に来て一部授業を行ったりするなど

「小中連携」の取り組みが大切です。6年生と中学校1年生の子どもがともに交流することも考えられます。また、中学校で頑張りたいことなど、一人一人に夢や目標を書かせたり語らせたりすることも効果的です。

次年度への夢と目標をもって進級、進学させるために、子どもの意識のスムーズな接続と発展を図る取り組みが求められます。いたずらに不安感や負担感を煽ることは慎みたいものです。次年度に向けて、好感イメージをもたせることがポイントです。

『子どもが育つ魔法の言葉』

(PHP 文庫)

本書には、詩「子は親の鏡」が紹介されています。作者のドロシー・ロー・ノルトが1954年に書いたものです。その後、一部修正が加えられています。ドロシーは家庭教育に生涯を捧げた教育家です。本書がPHP文庫として出版されたのは2003年のことです。すでに82刷にもなっているベストセラーです。

本書は、子どもは親を手本に育つこと、毎日の生活での親の姿こそが、子どもに最も影響力をもつことを一貫して主張しています。詩の一節には、心に残る言葉がたくさんあります。そのなかから、いくつかを紹介します。

- ・けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる
- ・とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる
- ・叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう
- ・誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
- ・認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる

どれも、子どもを心から愛することから生まれた温かく、納得できる言葉ばかりです。本書の「はじめに」には次のようにあります。

「親は、子どもにとって、人生で最初に出会う、最も影響力のある『手本』なのです。子どもの生活のなかで親の姿や生き方から、よいことも悪いこともすべて吸収してしまいます。」

本書には、詩の内容について具体的に例示しながら、一つ一つ丁寧に解説されています。子どもを育てるバイブルとして参考になります。

教育時事 **教育の動向**

道徳は「特別の教科 道徳」に

中央教育審議会は「道徳の教科化」について検討してきました。その結果、「道徳の時間」を「特別の教科 道徳」(仮称)とすることを提言しました。今後、この方向で道徳に係る教育課程のあり方が改善される見通しです。

国語科や社会科などのように教科ではなく、「特別の教科」としたことにはいくつかの理由があります。

通常の教科の場合には、専科の教師が指導することができます。しかし提言では、道徳の時間の指導は、学級担任が指導することが望ましいとしています。道徳の時間は、道徳教育の要とし

て人格全体に関する道徳性の育成を目指しているからというのが理由です。つまり、子どもたちをもっとも理解しているのは学級担任であるからです。

また、各教科のように数値などによる評価(評定)を行うことはなじまないというのも、「特別の教科」とした理由にあげられます。

「特別の教科」になると、各教科のように教科書がつくれます。文部科学省による検定や教育委員会による採択などの事務が行われます。

「特別の教科 道徳」の学習指導要領として示される目標や内容等も根本的に改められる模様です。道徳教育との関連性や各教科等における指導との役割分担など、これまでよりも体系的で構造的な記述内容になるでしょう。

コラム

ものの見方・考え方は何か(5)

「これまで」と「これから」

将来に備えることは、あらゆることに対して大切なことです。十分な備えや準備をするためには、これからどのような事態になるのかを見通したり予測したりすることが必要になります。これからのことを考えるときに参考になるのが、そのことに関してこれまでどうだったかを知ることです。

例えばその土地で過去に自然災害があった場合、将来再び起こりうる可能性があります。ここ数十年の人口が減少傾向にあるとき、多くはこれからも人口は減少していきます。

歴史に名を残している時代のリーダーが多数います。例えば、織田信長や豊臣秀吉、坂本竜馬、西郷隆盛などは多くの人たちから親しまれています。優れた先人はさまざまな問題を解決し

てきました。先人の業績から時代を超えて求められる問題解決の原則や知恵を学ぶことができます。

「温故知新(古きをたずねて新しきを知る)」という言葉があります。昔のことをよく学ぶことにより、新しい考え方や知識などを得ることができることをいいます。私たちが見方や考え方を定めるとき、過去から学ぶことの大切さを指摘しているのでしょうか。

これからのことをよりよく考え、見定めるためには、いまの実態をよく見ること大切ですが、過去にも目を向け、何があったのか、過去にはどのように解決されたのかを知ることが重要です。「これまで」を振り返って「これから」を見たり考えたりするという時間軸をもつことが問題解決のヒントを得ることにつながります。身につけたい見方・考え方のひとつです。

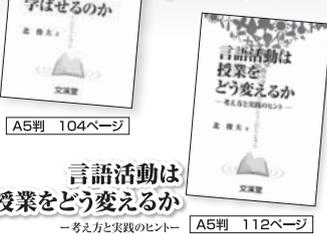
INFORMATION

こんなときどうする!
学級担任の危機対応マニュアル

◎著者 北 俊夫
◎定価 950円+税
◎発行 株式会社文溪堂
A5判 96ページ



なぜ子どもに社会科を学ばせるのか



言語活動は授業をどう変えるか
— 考え方と実践のヒント —
A5判 112ページ

編集後記

この一年を振り返ると、できたこと、できなかったこと、いろいろ頭に浮かびます。私自身、日々段取りを組み、仕事に追われていた状況から、少しずつゆとりも見えてきました。この時期に、しっかり振り返りを記録し、次年度へのイメージをもちたいものです。(T記)

企画・編集：ぶんげい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2015年3月1日